

令和6年度

「運営に関する計画」  
—最終評価—

大阪市立三国小学校

令和7年2月

## (様式2)

## 大阪市立三国小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%にする。</li> <li>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。・小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。・令和6年度末校内児童アンケートで「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%にする。</li> <li>・令和6年度末校内児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。</li> <li>・令和6年度末校内児童アンケートで「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> 「学校生活のきまり」や、児童会活動の年間計画を通して、安全で安心できる学校づくり、異学年交流を推進し、安心して楽しく生活できる学校をつくっていく。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回「学校のきまり」を振り返る時間を設ける。</li> <li>・週に1回異学年交流の場を設けたり、年に1回子どもフェスティバルを開催したり、年に3回児童会を中心としたあいさつに関する強調週間を設けたりする。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</b> 日々の児童の様子やスクールライフノートを活用した児童の観察を基に、生活指導部会、スクリーニング会議で情報を共有し、支援を行っていく。また、状況に応じて、スクールカウンセラーや「淀川区子どもサポートネット」と連携し、よりよい支援方法について話し合う。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールライフノート「心の天気」「いいとこみつけ」活用に関する資料を提示する。</li> <li>・月に1回生活指導部会やスクリーニング会議を実施する。</li> <li>・いじめの早期発見のため、児童へ学期に1回、保護者に年に2回のアンケートを行う。</li> </ul>	B
<p><b>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b> 「互いの違いを認め合い、思いやりの心をもつ子ども」「自分のよいところを自覚し、そのよさを大切にできる子ども」の育成のために、「多様な体験活動」を盛り込</p>	A

んだ人権教育を進める。

指標

- ・「三国小学校の人権教育」に沿って全学級で実践し、年に1回実践交流の場を設ける。
- ・ソンセンニム（韓国・朝鮮の文化等を教える民族講師）・特別支援に関して、他の機関と連携し、年に8回以上の体験活動に取り組む。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

校内アンケート目標（学校のきまり）肯定的に回答する児童の割合を90%以上  
⇒（思う）55.6%（少し思う）37.8% 合計93.4%（達成できている）

校内アンケート目標（学校に行くのは楽しいか）肯定的に回答する児童の割合を85%以上  
⇒（思う）92.1%（達成できている）

校内アンケート目標（いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか）  
肯定的に回答する回答する児童の割合を85%以上  
⇒（思う）89.7%（達成できている）

- 毎月の生活指導部会で話し合った学校のきまりについても学年で共有し、学級ごとに指導を行っている。しかし学校のきまりを守れていない場面もある。
- 児童集会、縦割りフェスティバルなど異学年交流を実施できている。
- あいさつに関する強調週間では、特に子どもたちがすすんで行っているように感じるが、あいさつ週間以外で積極的にあいさつをできているとは言えない。日々の声掛け、教員のあいさつへの意識が必要。来校者へのあいさつはいまだ少ないと感じる。
- スクールライフノート「心の天気」「いいとこみつけ」を活用している。
- 月に1回、生活指導部会やスクリーニング会議を実施できている。月1回の生活指導部会では、子どもの行動や課題について情報を共有してきた。また、スクリーニング会議を実施し、地域や関係機関との連携を図ってきた。
- いじめの早期発見のため、児童へ学期に1回、保護者に年に2回のアンケートの実施はできている。スクールカウンセラーや「淀川区子どもサポートネット」など外部と連携して、よりよい支援方法について話し合う必要があると思う児童がいるが、判断が難しい場合もあり率先して行えていない。
- 「三国小学校の人権教育」に沿って、学年では全学級で実践をすすめている。年度末に実践交流会を実施し、実践の交流もできた。
- 体験活動を計画的に行うことで、子どもたちが多文化・特別支援に対して関心をもつことができている。
- 2学期の校内児童アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」で86.3%である。1学期より少し上昇しているが、自尊感情が低い児童がまだまだいる。

### 次年度への改善点

- ① 目標とする回答割合は達成しているが、「学校のきまり」を学校全体として守れているとは言い難いため、学校のきまりを精査していく必要がある。  
児童会主体のあいさつ運動はできているが、日頃のあいさつには結びついていないため、日常の取り組みの工夫を考えた方がよい。  
次年度も継続して「学校のきまり」について定期的に確かめ、どうしてそのきまりがあるのかについても話し合うようにする。  
学校行事だけでなく、各教室での教科指導などと関連させた取り組みなど、学校教育全体で行えるような意識改善をはかる。
- ② 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上という指標を90%以上に変更するはどうか。  
回答で『思う』と答えた児童は89.7%である、そもそもこの指標は100%でなければならぬ。しかし、「少し思う」「あまり思わない」「思わない」「わからない」と回答している児童が10.3%もいるということが分かった。  
いじめについて考える日や普段の指導の中で「どんな理由があってもいじめてはいけない」ということを全面に出していく。
- ③ 人権教育は毎年取り組むことに意味があるので、継続して実施していく。また、次年度に向けて教材の見直しが必要になる。体験したことが、コンテンツで終わらないように、他教科や実生活へつながるような取り組みが必要。

(様式2)

## 大阪市立三国小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</li> <li>・令和6年度末の校内児童アンケートで「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。</li> <li>・令和6年度末の校内児童アンケートで「理科の学習が好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を63%以上にする。</li> <li>・令和6年度末の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動をするのが好きですか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>対話を通して、自分の考えを深められるよう、各学年において、「めざす子ども像」を具体的に設定する。また、基本的な学ぶ姿勢を養い、考え方や思いを伝え合う力を高めるために、伝え合う場の工夫をし、筋道を立てて自分の考え方や思いを主体的に表現できる子どもを育成する授業デザインの工夫を行う。</p>	B
<p><b>指標</b> 全学年で対話的な学びを充実させられる指導法の研究を行い、各学年1回ずつ、全体授業研究会・討議会に取り組む。</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>対話を通して、考え方を深めたり、広げたりできるような授業デザイン力や指導力向上を目指した研究や研修に取り組む。</p>	A
<p><b>指標</b> 校内公開授業に年1回以上全教員が取り組み、相互参観し、研鑽に努める。</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>児童が理科の学習が好きになるような授業デザインの工夫を行う。</p>	B
<p><b>指標</b> 理科の実験や授業デザインに関する研修を年に1回以上行う。</p>	
<p><b>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b></p> <p>平素の体育科学習に加えて、休み時間活用し、運動に親しむ児童を増やすようにする。</p>	A

<p>指標 発達段階に応じた運動ができるように、内容を工夫して、月3回以上講堂開放を行う。</p>	
<p>取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 「生活点検調査」を実施し、規則正しい生活習慣や運動習慣について、機会を捉えて指導を行う。</p>	B
<p>指標 学期に1回「生活点検」を実施し、集計結果を児童・保護者に周知する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 年度当初から全学年1回ずつ、全体授業研究会・討議会を計画的に実施し、「考えを深めるための対話」を軸に各学年で授業研究を進めた。対話的な学びを充実させるための指導内容や指導法について、学年での話し合いや指導案検討会などで議論してきた。また、研究授業や討議会で考えを共有したり、深めたりすることもできた。日々の授業でも、自分の考えを伝え合う取り組みを多く取り入れており、主体的に学習をすることができた。また、【令和6年度末の校内児童アンケートで「話し合う活動で、考えを深めたり、広げたりしていることがありますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする】という目標を2学期の校内アンケートでは、56.5%と上回っている。研究2年目で対話の方向性が定まりつつあるので、学校全体で実践の共有をしつつ、児童の学びに還元していく必要がある。</p> <p>② 全員授業の時期を年度当初に計画し、校内公開授業に年1回以上全教員が実施した。実施時期や日程を早くから設定することで授業者も参観する教職員も計画的に準備することができた。放課後の討議会においては、複数の教職員の考え方や感想を交流することで、授業者だけでなく参観者も多くの学びを得られた。また、一人一授業やSA訪問研修を行うことで、教員同士の授業を見ることや討議会を実施、参加することで、指導力・授業の質の向上がみられた。</p> <p>③ 【令和6年度末の校内児童アンケートで「理科の学習が好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする】という目標を2学期の校内アンケートでは、85.1%と上回っている。指標に掲げている研修を1学期に1回実施した。理科に関する全体研修会を開き、理科学習について学ぶ機会をもてた。また、日々の学習で、理科が楽しくなるような工夫を凝らした授業がみられ、児童の学習意欲の向上がみられた。知ることで理科を好きになり、指導者が理科を楽しむと子どもたちも楽しく学べることがわかった。理科の実験については、各学年で積極的に理科室を活用しているように感じる。理科の学習が好きな児童が8割という結果の中、授業デザインの工夫等は各担当者が行っており学校としての統一は難しい。</p> <p>④ 月に3回以上講堂開放を行っている。学年に応じて内容が違っていることで、低学年から高学年まで運動に親しむ様子が見られている。天気の悪い日や地面がぬかるんで使用できないときに、講堂開放があれば運動量を確保できるのでよいと感じた。児童は、講堂開放やなわとびの練習などを楽しみにしており、休み時間には声をかけあっている姿をよく見た。2学期の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動するのが好きですか」76.4%である。</p> <p>体育委員会が中心となって児童にルールを説明したり記録をとったりした。記録がつく運動の場合は、給食の時間に上位の結果を放送し、表彰をした。参加児童だけでなく体育委員会の児童も率先して活動に取り組んでいた。</p> <p>休み時間に運動場での体を動かす遊びや運動に勤しんでいる様子が見られた。また、体育係がなわとびチャレンジや講堂開放を行うことで、体育が苦手な児童も参加することができた。【令和6年度末の校内児童アンケートで「体を動かす遊びや運動をするのが好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする】という目標を2学期の校内アンケートでは、85.1%と上回っている。</p>	

<p>すか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を70%以上にする】という目標を2学期の校内アンケートでは、76.4%と上回っている。</p> <p>⑤学期に1回、生活点検を行い、規則正しい生活習慣を身につけるために、児童や家庭に向けて委員会での動画での呼びかけやほけんだより等で結果を周知してきた。ほけんだよりだけでなく、給食の時間に結果を放送することで、達成感を感じたり自身の生活へのふり返りができた。保護者来校の機会に合わせて集計結果を掲示したり、学校ホームページで表彰の様子を知らせたりして、家庭の意識を高められた。保健委員会の児童が動画を撮影し、点検週間中は規則正しい生活をしようと意識が高まっている児童が多い。例年、高学年になるにつれて、就寝時刻の遅れや運動習慣が減っているのが課題である。</p>	<p>次年度への改善点</p>
<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力向上をめざした授業の研究に取り組むことができたが、対話を通して、考えを深めたり、広げたりできるような授業デザイン力に関しては次年度もより追求し深める必要がある。</li> <li>・区教員研究発表会に向けて、取り組みを厳選していく必要がある。</li> <li>・各学年で設定した「めざす子ども像」に基づき、学年ごとの系統性を整理するために、研究の視点に沿って、1年間の取り組みの評価をする必要がある。</li> </ul>	
<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究・研修の振り返りを集約し、今年度の反省を次年度に生かせるようにする。</li> <li>・相互参観については、今年度の取り組みを継続できるようにする。</li> <li>・放課後の討議会や計画・実施の方向性が整ってきてているように感じるため、校内研究とも連携して、来年度も継続的に実施していくことがよいと感じる。</li> </ul>	
<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指標に掲げている内容は、達成できている。</li> <li>・理科主任と連携して、理科の学習についての系統性など取り組む必要がある。</li> <li>・学校全体の研究とのずれがあるので、この項目を継続するかどうかの検討も必要。</li> </ul>	
<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に親しむ内容を考慮して取り組んでいる講堂開放は、行事との兼ね合いに気をつながら来年度も継続して実施できるとよい。</li> <li>・あくまで自由参加であるため、参加していない児童が少なからずいる。参加していない児童への働きかけについても考えていく必要がある。</li> </ul>	
<p>⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3学期は集計作業等の負担軽減のため、ICT機器を活用しての点検に変更とした。児童にとってよいものとなるよう次年度から活用できるか検討していく。</li> <li>・児童の実態より、生活習慣や運動習慣の改善が必要と思われる児童は、提出ができていなかったり、結果が悪かったりしている。今後も継続した指導が必要である。</li> <li>・「生活点検」の期間をきっかけにそれ以外の期間の生活習慣も改善できるよう、指導することを来年度も継続して組織的に指導する必要がある。</li> </ul>	

## 大阪市立三国小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]</li> <li>ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</li> <li>小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76%以上にする。</li> <li>令和6年度末の校内児童アンケートで「読書は好きですか」の項目に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</li> <li>学校、地域、家庭の連携による様々な取り組みを学期に1回実施する。</li> </ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</b> 教職員がICT機器を活用できるよう、ICT機器の環境整備を行うとともに、ICTの効果的な活用例等の共有も推進していく。加えて、ICT支援員等の人材派遣等も活用していく。</p>	C
<p><b>指標</b> 2年生以上の学級で、学習者用端末を活用した日数を週4回以上実施する。</p>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</b> ICT機器の活用、欠席・連絡等アプリの活用、スクールソポーター、林間学習の学生ボランティア・看護師派遣等の外部人材を活用し勤務時間の削減に努める。加えて、行事の精選についても計画的に行う。</p>	B
<p><b>指標</b> ゆとりの日を週に1回設定・実施する。</p>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</b> 保護者・地域や公的機関と連携し、子どもの学習をサポートする仕組みを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み語り「がちやほん」との交流</li> <li>PTA・地域諸団体による児童の登下校の見守り</li> <li>区役所・警察署との避難訓練・防犯教室</li> <li>地域の講師との英語の学習</li> <li>放課後ステップアップ教室</li> <li>保護者引き渡し避難訓練</li> </ul>	B
<p><b>指標</b> 学校ホームページで、各学年月に3回更新するほか、月に1回程度、保護者・地域など外部人材との教育活動を実施する。</p>	

## 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ①各学年、児童の実態に応じて学習者用端末を活用した学習を行うことができた。心の天気の入力や朝学習や長期休業中の課題としてデジタルドリル（ナビマ）の活用、調べ学習や作品鑑賞での活用、発表スライドの作成、ディジー教科書での音読支援など、授業や家庭で活用できた。
- 視聴覚部・教務部を中心に、ICT 機器の環境整備を行い、必要な研修を行った。ICT 支援員の方にタブレット開きやいじめアンケート・学校アンケートなどで児童の操作、また、通級指導教室の研修資料作成やスケジュール作成の操作を支援していただくなど、活用することができた。しかし、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、12月までで55.7%となっており、年間授業日の70%以上を達成できていない。
- ②ゆとりの日を週に1回設定・実施することができた。ゆとりの日があることで、退勤時刻は意識されるようになったが、実質的な勤務時間の削減になっているとは言えない。学期初めには、短縮授業を導入した。勤務時間を個々に設定したりミマモルメを活用したり、様々な人材を確保したりして教職員の働き方改革が進められてきた。林間学習では、学生ボランティアや看護師の派遣等により、より多くの目で子どもを見守ることができた。
- ③ がちゃぽんさん・学校司書さんにより、日々の読書指導を行うことができた。その結果、校内児童アンケートの「読書は好きですか」においては、肯定的に回答する児童の割合が89.3%で80%以上を達成できた。
- 放課後ステップアップ教室は、4年生を対象に3学期から実施できるようになった。学校ホームページで、各学年が更新することで、保護者や地域などに学校について知る機会をつくった。保護者アンケートの「学校は、学校だより・学校ホームページ等で、教育目標や教育活動について保護者に伝えている」においては、肯定的な回答が90.6%であった。学校ホームページで、各学年月に3回更新することができた。
- 学校、地域、家庭の連携による様々な取り組みを学期に1回以上実施することができた。保護者アンケートの「学校は保護者や地域等と連携をよくしている」においても、肯定的な回答が93.3%であった。

## 次年度への改善点

- ① 今後も児童の実態に合った学習者用端末の活用を模索していく。ICT 支援員の方を効果的に活用できるようにするために、引き続き来校日を行事予定に明記するようにする。
- ② 今後も行事や業務内容の精選に取り組み、ゆとりの日を設定・実施できるようにする。
- ③ 読書推進のために、図書館だけでなく、学級の読書環境をより充実させる必要がある。学校ホームページで、各学年月に3回更新できるよう視聴覚部を中心に推進していく。また、学年打ち合わせ、月末に職朝等で声掛けをしていく。
- 放課後ステップアップ教室は、3学期からの実施であったため、年度初めから計画的に人材を確保できるようにする。今後も引き続き保護者・地域など外部人材との教育活動を実施する。